

学校教育目標	【友愛】心豊かな人創り 【自律】自ら学ぶ人創り 【進取】活力あふれる人創り
目指す学校像	【友愛・自律・進取】の気概溢れる我らが学び舎“TEAM TOKIWA”の創造
重点目標	1 教育DXの展開～質の高い深い学びの実現 2 生徒主体の活動の拡充とエージェンシーの向上 3 地域とともにある学校づくりの推進 4・5 持続可能な働き方と教育活動・環境の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<b>【学びの質の向上に関する取組】</b> (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・理科の結果は、全国、市平均と比べ、概ね良好である。 ○全国体力・運動能力、生活習慣等調査において、実技集計の結果は、全国、市平均と比べ概ね良好である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の自校結果分析から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いで、肯定的評価は、県・国平均を上回っているが、自校生徒の実態を踏まえ、更に高めたい。	・教育DXの本格展開による新たな学び方の推進(デジタルとリアルハイブリッド) ・個別最適な学びの実践と、読解力向上、学びの自律化	①「教育DXの展開」についての研究を進め、デジタル教科書やICT機能を活用した授業により、生徒の学び続ける意欲・態度を高め、質の高い深い学びを具現する。 ②全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査について、採点結果から生徒自らが学習状況を把握できるようにする。 ①日課表を見直し、朝読書の時間を確保することで読書に親しみ、生徒の読む力を高める。 ②新たなデジタル学習基盤の活用やチャレンジスクールへの参加を通して、個に応じた学びを推奨する。 ③校内教育支援センターの組織的運営による多様な生徒への適切な支援を行う。	①学校評価「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の生徒の割合が90%以上となったか。 ②学習状況調査の採点結果をもとに、生徒自らがこれまでの学習を確認、評価し、今後の学びに生かすことができたか。 ①毎日の生活に「朝読書」の時間を確保できたか。集中して本や資料を読むことができたか。 ②単元や学期ごとに、生徒それぞれの学習への取組状況を確認し、個々の努力を承認したか。 ③生徒、保護者、教職員の連帯のもとに、個々の学びを支援したか。					
2	<b>【子どもの発達や心のサポートに関する取組】</b> (現状) ○全国学力、学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が全国、市平均と比べ、高い。 (課題) ○いじめやSNSトラブル等はゼロではない。 ○教職員自らが、常に人権意識や人格教育への識見を磨きつづけなければならない。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した発達支持的生徒指導、教育相談、人権教育の充実、エージェンシーの醸成	①目と目を合わせた毎朝の健康観察や何気ない会話、加えてスクールダッシュボードの活用により、生徒の小さな変化を見逃さない風土をつくる。 ②毎学期の「ほのぼのタイム」や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ③生徒の主体性(エージェンシー)を生かした生徒委員会や部活動での取組を支援、推奨する。 ④研修を通して、教職員自身の人権感覚や言語環境を向上させ、教職員自身が範となる。	①各学級で担任等による一日の始まりが円滑に行えたか。 ②生徒一人ひとりを大切に、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ③学校評価「係や委員会活動等に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が95%以上となったか。 ④学校評価「生徒のよさを伸ばす」の肯定的回答(職員95%以上保護者90%以上)となったか。					
3	<b>【地域とともにある学校づくりに関する取組】</b> (現状) ○現在までの学校運営協議会において、生徒に身に付けさせたい力について熟議を重ねた。その結果、コミュニケーション力の育成に向け、あいさつの励行を徹底することを共有した。 (課題) ○情報化とともに個人情報保護等の社会状況を踏まえ、学校からの情報発信とともに、土曜授業や学校行事等の保護者・地域への適切な公開を適宜実施し、地域とのインタラクティブなコミュニケーションの在り方も課題としたい。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの充実 ・ICTツール等を活用した情報発信と、教育活動参観機会の設定	①生徒の成長を支える当事者としての自覚を生徒自身、職員、保護者、地域住民それぞれに促す。 ②育てたい力「コミュニケーション力」の育成に向けた挨拶を励行する。 ③関係小学校との連携により、学校運営協議会を円滑に開催する。 ①学校HPの時宜的な更新や、毎月の便りの発行等により学校の情報を広く公開する。 ②学校運営協議会の様子を知らせる便りを発行し、学校・家庭・地域が一体となった活動を共有する。 ③学校教育活動の参観、公開を適宜実施する。	①生徒への意識付け、保護者地域への説明を年度当初に行えたか。 ②目指す挨拶の仕方・姿を検討し、学校、家庭、地域で共有できたか。 ③常盤小学校、常盤北小学校との情報交換を密にし、同一の目標に向かって生徒の活動を支えたか。 ①学校評価「情報をわかりやすく発信している」と思う保護者の割合が90%以上となったか。 ②「コミュニティ・スクール便り」を発行し、活動を地域へ伝えることができたか。 ③毎学期、保護者の学校への来校機会を設定できたか。					
4	<b>【教育環境の整備に関する取組】</b> (現状) ○築50年を経た校舎や施設について、老朽化による破損等が多い。 ○感染症の多様化する状況等により、教育活動の制限や学級閉鎖等が、いつ起こるかかわからない状況にある。 (課題) ○安全安心な環境整備及び学校運営に係る公金と施設管理の適正性、可視性の担保 ○生徒にとって学校が居心地のよい Well-being な場所であり続けなければならない。	・経年劣化等による施設等への適宜適切な対応 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①月例安全点検実施及び適切な事後対応を遂行する(市教委との連携、経過観察等) ②管理職、事務職との月例ミーティングによる予算執行管理を徹底する。 ③校長マネジメント経費の概要及び計画を教職員に周知する。 ①安全に関する集会等を設け、各自の責任と生徒委員会活動の徹底により、安心・安全な学び舎を維持する。 ②生徒会活動や環境教育を推進し、清掃、備品管理の整った清潔感、季節感溢れる環境を維持する。 ③施設設備の安全点検等から、不具合を早期発見し、素早い修繕等に繋げる。	①分掌評価「予算」に関して、その執行に係る肯定的評価が90%以上となったか。 ①適宜適切な安全集会を開催し、生徒自身が身を守る意識を高めることができたか。 ②学校評価(保護者)「整備」に関して90%以上となったか。 ③施設等の瑕疵を見逃さずことなく、修繕することができたか。					
5	<b>【教職員のキャリア形成に関する取組】</b> (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、教育DXの推進等、研修が計画的に行われている。 (課題) ○全職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと高信頼性組織の意識付けが求められる。	・協調と創意を基盤とし、挑戦を奨励する組織の醸成	①「教育DXの活用を通した持続可能な指導の研究」について、校内研修を通して学び合い、指導に生かす。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。 ③“チーム常盤”の教育活動の充実を図るための「情報の共有化」「場の共有化」「目標の共有化」を有機的組織として構築する。 ④「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」を踏まえ、「働きがい」「働きやすさ」向上に努める。	①教育DXを活用した授業の実践、研修を通して、生徒一人ひとりの学習進度や習得状況、興味関心に応じた学びの場や機会の創出ができたか。 ②職員個々が計画した人事自己評価における「研修」が予定通りに進められたか。 ③教職員の同僚性、協働性を高めることができたか。 ④左記④の計画を踏まえた労務管理ができたか。					

